

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-04-01	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事
事務事業名	観光情報提供事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	山下	
		担当者名	本宮	内線	461	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-01-01	観光情報提供事業				
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業	
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和	14年度	根拠			
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	令和3年度	法令等			
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="radio"/> 計画 <input type="radio"/> 非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市			
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成			
	施策	02	受入体制の充実と観光情報の発信			
目的	荒川区の観光情報を区内外に広く提供することによって、区のイメージアップを図るとともに区への来訪者を増やし、地域経済の活性化を図る。					
対象者等	区外の人々及び区への来訪者					
内容	①イベントカレンダー作成(14年度～)②HPに区内行事のインターネット動画配信(14年度～)③HPに都電関連サイトの開設(14年度～26年度)⇒27年度より区HPへ統合④まちあるきマップ作成(17年度 日暮里・南千住、18年度 都電、19年度 日暮里・南千住改訂、20年度 都電に舍人ライナーを含め改訂、21年度 日暮里・南千住改訂、日暮里・谷中作成、22年度 都電改訂、24年度 南千住改訂、27年度 日暮里改訂・千住散策マップ改訂・日暮里・谷中増刷改訂、28年度 全マップ増刷、29年度 都電改訂、日暮里・南千住、日暮里・谷中増刷、30年度 南千住改訂、都電・日暮里増刷、元年度 日暮里改訂⑤観光PR協力所設置81か所(R2.7.1現在)⑥都電荒川線散策マップ(19年度)⑦行政観光パンフレット作成(20年度作成、23年度改訂)⑧観光スポット特集冊子の作成(20年度)⑨京成日暮里駅構内PRコーナー運営(24年度～)⑩イメージポスター作成(24年度)⑪ツイッター開始(24年度)⑫日暮里駅前イベント広場電光掲示板情報更新(25年度～)⑬南千住駅構内PRコーナー運営(26年度～)⑭おいでよ！あらかわ改訂(元年度)⑮観光アプリ開始(元年度～)					
経過	○平成22年度から観光ボランティアガイド事業を受入体制整備事業へ移管した。 ○区内行事のインターネット動画配信 都電荒川線のバラ、諏訪神社御神幸祭、素盞雄神社天王祭、八幡神社例大祭、元三島神社神幸祭、石浜神社神幸祭、胡録神社例大祭、仲町通り阿波踊り大会、熊野前サンバカーニバル ○都電荒川線花見どころサイトは、産業HPで運営していたが、産業HPの廃止に伴い、27年度に区HPへ統合した。 ○Twitterは28年4月1日を以て広報課アカウントと統合した。					
必要性	多様な情報発信により区のイメージアップ及び来訪者の増加が期待できる。					
実施方法	（一部委託）（直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）					
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移				指標に関する説明
		29年度	30年度	元年度	2年度見込み	
	① 観光PR協力所の設置件数(延べ件数)	91	92	81	83	113
	②					
③						
事務事業の分類		分類についての説明・意見等				
2年度	3年度					
推進	重点的に推進	区のイメージアップ及び区外からの誘客を図るため、区内外に向けた様々な情報発信を工夫する取組みを重点的に推進する。				

予算・決算額等の推移	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額	1,338	3,446	3,534	3,610	6,863	12,140	5,181
決算額 (2年度は見込み)	731	3,348	3,227	3,030	5,090	10,673	5,181
実績の推移	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
事項名 (2年度は見込み)							
イベントカレンダー	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
まちあるきマップ (区単独)	100,000	112,000	37,000	75,000	168,000	122,000	0
まちあるきマップ (他区連携)	-	60,000	262,000	-	-	-	48,000
観光PR協力所設置件数 (延べ)	85	91	94	91	92	81	83

予算・決算の内訳							
平成30年度 (決算)			令和元年度 (決算)			令和2年度 (予算)	
節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項
報償費	まちあるきマップ翻訳確認謝礼	12	報償費	プロポーザル外部委員謝礼	59	需用費	観光PRチラシ作成費ほか
需用費	観光PRチラシ作成費ほか	1,220	需用費	観光PRチラシ作成費ほか	31	委託料	まちあるきマップ作成費ほか
委託料	まちあるきマップ作成費ほか	3,819	委託料	まちあるきマップ作成費ほか	10,534	使用料	イラストレーター利用料
使用料	イラストレーター利用料	39	使用料	イラストレーター利用料	49		

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目		
	30年度	元年度	差額		30年度	元年度	差額
行政費用	給与関係費	4,916	10,870	5,954	地方税	0	0
	物件費	5,078	10,614	5,536	国庫支出金	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	1,597	4,390
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0
	補助費等	12	59	47	使用料及び手数料	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	1,597	4,390
	賞与・退職給与引当金繰入額	268	865	597	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 8,677	▲ 18,018
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0
	行政費用合計(b)	10,274	22,408	12,134	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 8,677	▲ 18,018
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 8,677	▲ 18,018	

備考 行政費用では、給与関係費を除くと物件費が主なものであり、主な内訳としては、荒川区観光アプリ導入及び運用保守業務委託に7,282,000円、日暮里まちあるきマップの改訂に2,378,068円かかっている。行政収入では、区市町村観光インフラ整備支援補助金として4,390,000円の収入がある。

- 問題点・課題
- ①区への来訪者を増やすためには区外への情報発信が不可欠となるが、そのためには、新たなツールを積極的に開拓していく必要がある。
 - ②オリンピック・パラリンピック開催に伴い、今後増加が予想される外国人観光客に向けた情報発信手段を積極的に確保していく必要がある。
 - ③区外へのイベント等の情報発信を強化するため、ポスター等の掲示が可能な協力先（区外の駅や施設等）の開拓の必要がある。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	区外向けの効果的な情報発信手段について、新しく取り組む観光アプリも含めて引き続き検討する	区外向けの効果的な情報発信手段として、観光アプリを導入した	観光アプリの掲載情報の充実について検討する
②	観光アプリの導入に伴い、区内駅の観光PRコーナー掲示スペースの更なる有効活用を図る	観光PRのため、区内駅の掲示スペースを活用した	区内駅の掲示スペースを活用し、観光PRの更なる有効活用を図る
③	観光案内所における外国人をはじめとした旅行者に対する様々な方法での情報発信を検討する	配布するパンフレット等には外国語への翻訳内容を掲載した	コロナ禍において荒川区に來れない外国人をはじめとした旅行者に対する様々な方法での情報発信を検討する

他区の実況	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)
-------	--------------------------

況 議会(要旨) 平成24年1定 日暮里駅周辺において、地元と協力して情報発信を進めるべき。
平成28年度決特 海外の有名なブロガーを活用した情報発信を行ってはどうか。

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-04-02	戦略プラン	<input checked="" type="radio"/> 協働 <input type="radio"/> 業務 <input type="radio"/> 財務 <input type="radio"/> 人事					
事務事業名	荒川区観光大使PR事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	山下			
		担当者名	本宮	内線	461			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-01-02	荒川区観光大使PR事業						
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和	18年度	根拠	荒川区観光大使設置要綱				
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	令和3年度	法令等					
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	02	受入体制の充実と観光情報の発信					
目的	「荒川区観光大使」によるPR活動により区のイメージアップを図る。							
対象者等	荒川区在住又は出身者で、区に愛着を持ち、区の魅力を積極的に紹介していただける著名人 区民、区外の人々及び来訪者							
内容	（観光大使） 城戸真亜子（洋画家）、三遊亭好楽（落語家）、井崎脩五郎（競馬評論家・タレント）、片岡鶴太郎（俳優・画家）の4名 ①区の最新情報（旬な話題、観光イベント情報、観光パンフ等）を随時提供。 ②観光大使PR物品を作成し、それぞれの立場において機会のあるごとに荒川区をPRしてもらう（名刺、都電荒川線ポストカード等） ③区長と観光大使との対談を実施し、対談内容をケーブルテレビやホームページ等で情報発信する。							
経過	平成19年度 観光大使が区の魅力を紹介する「私の大好きなまち」作成（23年度改訂） 平成21年度 区長との意見交換会を実施（城戸氏、好楽氏、井崎氏が出席） 平成22年度 区長との意見交換会を実施（好楽氏、井崎氏が出席） 平成28年度 観光大使名刺提示による特典の拡大（区施設（あらかわ遊園、荒川ふるさと文化館）の利用料無償化）							
必要性	著名人の協力による幅広い人脈やネットワークを活かし、区の知名度及びイメージの向上を効果的に図ることができる。							
実施方法	（ <input type="radio"/> 1直営 <input type="radio"/> ） （直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員 <input type="radio"/> ）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			29年度	30年度	元年度	2年度見込み		目標値(8年度)
	①	区長との対談（回）	0	0	0	1	1	
	②							
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
2年度		3年度						
継続	継続		観光大使のPR力を活用し、引き続き区の魅力を発信していく。					

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		192	166	126	136	130	150	146
決算額 (2年度は見込み)		91	47	43	74	59	98	146
実績の推移	事項名 (2年度は見込み)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	区長との対談 (回)	0	0	0	0	0	0	1
	PR活動(名刺等作成) (枚)	2,000	2,000	2,000	-	2,000	-	2,000
予算・決算の内訳								
平成30年度 (決算)			令和元年度 (決算)			令和2年度 (予算)		
節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)
需用費	大使PR物品購入費ほか	59	需用費	大使PR物品購入費ほか	98	需用費	大使PR物品購入費ほか	127
						使用料	会食会場使用料	19

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	30年度	元年度	差額		30年度	元年度	差額	
	給与関係費	983	1,482	499	地方税	0	0	0
	物件費	59	98	39	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	0	0	0	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	54	118	64	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 1,096	▲ 1,698	▲ 602
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	1,096	1,698	602	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 1,096	▲ 1,698	▲ 602
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 1,096	▲ 1,698	▲ 602

備考 行政費用では、給与関係費を除くと物件費が主なものであり、主な内訳としては、観光大使が配布するポストカードの作成に97,900円かかっている。

問題点・課題 観光大使に荒川区の魅力をPRしてもらうため、区の最新動向等を定期的なきめ細かく情報提供していく必要がある。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	観光大使に関心を持ってもらえるよう「荒川区の今」を工夫しながら定期的に提供していく	観光大使に関心を持ってPRしてもらえるよう荒川区のイベント等を工夫しながら提供した	コロナ禍においても、観光大使に関心を持ってもらえるよう荒川区の観光情報等を工夫しながら定期的に提供する
②			
③			

他区の実況	(実施 13 区 未実施 9 区 不明 0 区)			
	千代田区(観光協会アンバサダー)、中央区(ミス中央)、港区、新宿区(観光特使)、台東区、品川区、大田区(観光PR特使)、渋谷区、中野区、杉並区、豊島区、板橋区、葛飾区			
議会(要旨)質問状	平成27年度予特 平成27年度予特 平成29年度予特	著名人ではなく、一般の方による区の魅力発信を行ってはどうか。 観光大使の増員について 一般公募の大使等、他自治体の実状も含めて研究してみてはどうか。		

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-04-03	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事		
事務事業名	産業観光推進事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	山下			
		担当者名	木村	内線	461			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-02-01	産業観光推進事業						
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 2年度 <input type="checkbox"/> 元年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和	14 年度	根拠	荒川区モノづくり見学・体験スポット整備支援事業要綱				
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	年度	法令等					
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="checkbox"/> 計画 <input type="checkbox"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出					
目的	荒川区の産業技術や伝統工芸技術、区内で製造・販売されている優れた商品の紹介とPR、そしてモノづくり見学・体験スポットを通じて、モノづくりのまちあらかわのイメージアップと産業観光を推進する。							
対象者等	商品の製造、販売事業者 区民、区外の人々及び来訪者							
内容	<p>【モノづくり見学・体験スポット整備支援事業】 工房等を一般公開する者をスポット（以下、「モノスポ」）として認定し、必要に応じて改修等の費用を補助。2/3補助（上限100万円）うち、1/2は都補助あり（令和元年度認定1件（累計33件）内訳：認定40件、廃止・休止7件）。</p> <p>【あらかわモノスポ】 区外にて行うモノスポPRイベント。平成23年度より年1回。</p> <p>【モノスポツアー】 モノスポを公用車で巡るツアー。平成27年度より、年10コース程度。</p> <p>【荒川ブランドPRイベント】 荒川区伝統工芸職人・荒川マイスターのPRイベント ・「荒川ブランド」商品を紹介する冊子の作成・配布 ・観光PRコーナーの設置（おすすめ品の販売等）あらかわの伝統技術展等、年10回程度</p>							
経過	<p>平成19年度 モノづくり見学・体験スポット整備支援事業開始 平成20年度 ①都電ウォークラリーを分離し、単独事業へ。 ②荒川ブランドセールスプロモーション事業を統合。 ③伝統技術展を経営支援課へ移管。 平成23年度 「駅からハイキング関連事業補助」経費を観光イベント助成へ組み替え</p> <p>【「荒川ブランド」紹介冊子の内容】 ①「荒川のおすすめ品 区民が選んだおみやげ編Part1」平成17年度発行 ②「伝統工芸品・荒川マイスター製品編」平成18・20・22・25・28年度改訂 （伝統工芸品45商品/49名＋荒川マイスター製品22商品/22名＋リストのみ17名＝計67商品/88名） ※同一屋号の方は連名にて掲載するため、商品数と人数が異なる場合がある。</p>							
必要性	モノづくりのまちあらかわの地域資源を活かし産業観光を推進することで、地域産業の活性化を促進するために必要である。							
実施方法	（ <input type="checkbox"/> 一部委託） （直営の場合 <input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			29年度	30年度	元年度	2年度見込み		目標値(8年度)
	①	イベント会場での実演・展示・販売等実施件数	7	9	8	0	15	新型コロナによりイベント中止のため、2年度は0件見込み。
	②	モノづくり見学・体験スポットの件数	31	32	33	33	50	数値は累計
③	モノづくり見学・体験スポットの年間来訪者数	18,936	16,394	20,000	2,000	20,000	新型コロナにより休業等のため、2年度は大幅に減少見込み。	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
2年度	3年度							
推進	推進	モノづくりのまちあらかわを区内外に向け広く周知するため、モノづくり見学・体験スポットの拡大とPRの充実を推進する。						

予算・決算額等の推移	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額	4,776	5,560	6,273	5,361	7,539	8,049	10,289
決算額 (2年度は見込み)	3,706	3,016	4,312	2,877	4,362	4,282	10,289
実績の推移	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
事項名 (2年度は見込み)							
PR事業 (回)	17	14	11	10	11	11	0
内、ブランドPRイベント (回)	14	11	8	7	8	8	0
商品紹介冊子作成 (部)	-	-	25,000	-	-	-	20,000
モノづくり見学体験スポット	3	4	3	2	2	1	0

予算・決算の内訳								
平成30年度 (決算)			令和元年度 (決算)			令和2年度 (予算)		
節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)
報償費	通訳謝礼	24	報償費	イベント報償費、通訳謝礼	69	報償費	イベント報償費、通訳謝礼	149
需用費	ガイド作成	1,299	旅費	他自治体へのイベント出展	163	旅費	他自治体へのイベント出展	110
役務費	運送料、保険料	107	需用費	消耗品、ツアー用お買物券	41	需用費	消耗品、ツアー用お買物券	55
委託料	会場設営費	1,950	役務費	運送料、行事保険、動産保険	92	役務費	運送料、行事保険、動産保険	108
使用料等	会場使用料	984	委託料	会場設営、チラシ作成ほか	2,967	委託料	会場設営、チラシ作成ほか	6,807
			使用料等	会場使用料	945	使用料等	会場使用料	1,060
			負担金補助等	モノスポ整備補助金	5	負担金補助等	モノスポ整備補助金	2,000

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	30年度	元年度	差額		30年度	元年度	差額	
	給与関係費	7,866	6,423	▲ 1,443	地方税	0	0	0
	物件費	4,316	4,202	▲ 114	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	1,830	1,743	▲ 87
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	46	80	34	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計 (a)	1,830	1,743	▲ 87
	賞与・退職給与引当金繰入額	429	511	82	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	▲ 10,827	▲ 9,473	1,354
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額 (d)	0	0	0
	行政費用合計 (b)	12,657	11,216	▲ 1,441	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	▲ 10,827	▲ 9,473	1,354
	特別費用 (g)	0	0	0	特別収入 (f)	0	0	0
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	▲ 10,827	▲ 9,473	1,354

備考 行政費用では、給与関係費を除くと物件費が主なものであり、主な内訳としては、イベント会場設営費として1,554,300円、イベント会場使用料として944,900円かかっている。行政収入では、東京の多様性を活かした観光まちづくり推進事業補助金として1,743,000円の収入がある。

- 問題点・課題
- ・区民以外にも「モノづくりのまちあらかわ」をPRするため、既存事業の広報について検討する必要がある。
 - ・モノスポとして認定し得る製造業者が飽和状態にあるため、スポットを拡充する手段を検討する必要がある。
 - ・外国人観光客を受け入れることができる体制整備を行う必要がある。
 - ・新型コロナウイルス感染症との共存・終息後に向け、非接触型のイベント等を検討する必要がある。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	モノスポツアーについて、組合せや周知方法を検討し外国人に限らず新たな方に参加していただけるよう努める	事業周知のため、チラシ配布場所の開拓に努めた	ターゲットに応じた周知方法を検討し、効果的に事業を周知する
②	荒川ブランドPRについて、実施結果を元に今回行った場所でイベントを継続するか否かも含め、より良い実施場所を検討する	会場の事情により、実施時期の変更を検討した	新型コロナの影響により実施できなかった。予定していた会場は令和2年11月に閉館予定のため、より良い会場を検討する
③	外国人の誘客について実現可能な整備方法を今後も引き続き検討する	4ヶ国語に対応した観光アプリへの協力事業者の情報を掲載した	新型コロナ収束後の外国人誘客や対応について検討する

他区の実況	(実施 5 区)	未実施 15 区	不明 2 区)
東京の多様性を活かした観光まちづくり推進支援事業活用区：台東区 (中小製造業アトリエ化支援事業) その他関連事業実施区：墨田区 (すみだモダンブランド認証事業、すみだファクトリーめぐり)、大田区 (おたオープンファクトリー)、江東区 (江東ブランド推進事業)、足立区 (足立ブランド事業)			

況 議 平成17年2定 産業観光の視点で、姉妹友好都市交流をするべき。

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-04-04	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事		
事務事業名	観光イベント支援事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	山下			
		担当者名	木村	内線	461			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-03-01	川の手荒川まつり事業						
	01-03-02	観光イベント助成費						
	01-03-03	隅田川花火大会事業費						
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 2年度 <input type="checkbox"/> 元年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input checked="" type="checkbox"/> 昭和 <input type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和	62 年度	根拠	川の手荒川祭り実行委員会実施事業補助金交付要綱、荒川区観光振興事業補助金交付要綱				
終期設定	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	令和3 年度	法令等					
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="checkbox"/> 計画 <input type="checkbox"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出					
目的	区民等の開催する観光事業を支援し、区民とともに観光資源を育成する。							
対象者等	区民主体の民間団体 区民、区外の人々及び来訪者							
内容	<p>1 川の手荒川まつり実行委員会補助 28年度（汐入公園）12,340千円、29年度（南千住野球場）12,312千円、30年度（汐入公園）15,551千円、元年度（汐入公園）18,699千円</p> <p>2 観光振興事業補助等 元年度 6件 406千円（「まちの駅七福神めぐりウォークラリー」49千円、「秋の七草と鳴く虫の会」50千円、「駅からハイキング」74千円（2件）、「にっぽり電車まつり」195千円、「日暮里富士見坂写真展」38千円）</p> <p>3 隅田川花火大会実行委員会への負担金 ・26年度150万円 ・27年度150万円 ・28年度150万円 ・29年度180万円 ・30年度150万円 ・元年度165万円</p>							
経過	<p>○川の手荒川まつり 昭和62年以来、（計5回を除き）毎年4月29日（祝）に実施。17年の実行委員会において開催場所を南千住野球場、東尾久運動場、荒川遊園運動場、汐入公園で開催することをルール化した。27年度に安全面、ブース確保の問題から荒川遊園を除外し、3会場で実施することを決定した。</p> <p>○平成23年度 ・「駅からハイキング関連事業補助」経費を産業観光推進事業から組み替え。 ・「シダレザクラ祭り補助金」が公園緑地課（現在の道路公園課）に移管。</p> <p>○駅からハイキングにおける商店街PRのための補助 21～24年度、27年度、29年度、30年度（1団体）、元年度（2団体）：駅からハイキング（JR東日本）（単年度要綱にて助成、29年度より通年度要綱作成）、25、26年度は、JRの実施方法変更のため補助なし。28、29、30年度（1団体）は商店街連携支援補助を活用し実施。</p>							
必要性	区民・地域団体等が実施するイベントを支援することで、より多くの集客の機会を創出することが期待出来る。							
実施方法	（ <input type="checkbox"/> 一部委託）（直営の場合 <input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			29年度	30年度	元年度	2年度見込み		目標値（8年度）
	①	観光事業補助金申請件数	10	6	5	6	13	日暮里駅前広場活用イベント補助を含む
	②	川の手荒川まつり来場者数(千人)	79	50	38	0	103	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2年度はまつり中止
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
2年度		3年度						
推進		推進 区民・事業者の自主的活動は、観光振興による地域の活性化を図る上で欠かせないものであることから、今後も関係団体等に対する支援を推進する。						

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		14,095	15,205	18,280	19,082	22,424	25,106	28,279
決算額 (2年度は見込み)		12,901	13,903	17,379	18,180	21,087	23,469	28,279
実績の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
事項名 (2年度は見込み)								
シダレザクラ祭り参加者(人)		9,000	6,500	9,000	11,000	12,000	15,000	0
事業補助金(日暮里イベント含む)		9	9	9	10	6	5	6
川の手荒川まつり来場者(人)		72,000	78,000	55,000	79,000	50,000	38,000	0
川の手荒川まつり参加団体		137	127	127	131	129	129	0

予算・決算の内訳								
平成30年度(決算)			令和元年度(決算)			令和2年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
職員手当等	時間外手当(川の手荒川まつり)	197	職員手当等	時間外手当(川の手荒川まつり)	202	職員手当等	時間外手当(川の手荒川まつり)	251
職員手当等	時間外手当(隅田川花火大会)	286	職員手当等	時間外手当(隅田川花火大会)	254	職員手当等	時間外手当(隅田川花火大会)	295
賃金	臨時職員(川の手荒川まつり)	293	賃金	臨時職員(川の手荒川まつり)	612	報酬	臨時職員(川の手荒川まつり)	657
需用費	隅田川花火大会用消耗品	72	需用費	隅田川花火大会用消耗品	90	需用費	隅田川花火大会用消耗品	100
委託料	隅田川花火大会テント等設営費ほか	2,335	委託料	隅田川花火大会テント等設営費ほか	2,489	委託料	隅田川花火大会テント等設営費ほか	5,443
負担金補助等	隅田川花火大会分担金・観光振興補助金ほか	2,355	負担金補助等	隅田川花火大会分担金・観光振興補助金ほか	2,056	負担金補助等	隅田川花火大会分担金・観光振興補助金ほか	3,735
負担金補助等	川の手荒川まつり補助金	15,551	負担金補助等	川の手荒川まつり補助金	17,766	負担金補助等	川の手荒川まつり補助金	17,758

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	30年度	元年度	差額	30年度		元年度	差額		
行政費用	給与関係費	12,772	13,797	1,025	地方税	0	0	0	
	物件費	2,700	3,191	491	国庫支出金	7,775	0	▲7,775	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	17,906	19,822	1,916	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	7,775	0	▲7,775	
	賞与・退職給与引当金繰入額	671	1,062	391	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲26,274	▲37,872	▲11,598	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	34,049	37,872	3,823	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲26,274	▲37,872	▲11,598	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲26,274	▲37,872	▲11,598		

備考

行政費用では、給与関係費を除くと補助費等が主なものであり、主な内訳としては、川の手荒川まつり補助金として17,765,636円、隅田川花火大会実行委員会負担金として1,650,000円かかっている。

問題点・課題

- ①川の手荒川まつりの開催会場については、安全面や会場のキャパシティの面から、27年度に見直しを行い、今後3会場でのローテーション開催としたが、引き続き状況を注視していく必要がある。
- ②新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施にあたっては十分な対策を検討する必要がある。
- ③隅田川花火大会については、区内の観覧場所となる汐入地域において、実行委員会として関係機関と調整しさらなる安全対策を万全に図らねばならない。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	来場者の安全を確保するため、30年度の状況を整理し、改善点の対応を行う(川の手荒川まつり)	会場が同じだったこともあり、30年度の状況を踏まえた安全管理ができた(川の手荒川まつり)	前回と会場が異なるため、以前に同会場で開催した状況を整理し、改善点等対応する(川の手荒川まつり)
②	観覧客の安全を確保するため、30年度の状況を整理し、改善点の対応を行う(隅田川花火大会)	30年度の状況について、事前に関係機関と協議を行い、当日は安全を確保した運営ができた(隅田川花火大会)	外国人来場者の増加を見越し、案内表示の多言語化等の改善を検討する(隅田川花火大会)
③			

他区の実況	(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)
-------	--------------------------

議会質問(要旨) 平成14年3定 都電沿線の文化祭における区及び地元商店街の関わり方について
 平成16年1定 沿線商店街と連携した都電乗客サービスの提供と路面電車サミットの開催について
 平成17年2定 日暮里・舎人線の開通に合わせて、イベントを開催してはどうか。
 平成27年度決特 人が集まる隅田川花火大会を観光振興や商業振興に活用すべきと考えるが区の見解は。
 平成27年度予特 観光資源としての富士見坂の活用について

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-04-05		戦略プラン		<input checked="" type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	観光振興懇談会運営費		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	山下			
			担当者名	本宮	内線	461			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-04-01	観光振興懇談会運営費							
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業				
開始年度	<input type="radio"/> 昭和	<input checked="" type="radio"/> 平成	<input type="radio"/> 令和	18年度	根拠	荒川区観光振興懇談会設置要綱			
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無		令和3年度		法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内		<input type="radio"/> 都基準内	<input checked="" type="radio"/> 区独自基準	計画区分	<input checked="" type="radio"/> 計画 <input type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市						
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成						
	施策	02	受入体制の充実と観光情報の発信						
目的	観光に関する様々な分野の有識者で構成する懇談会を開催し、区の観光振興の目指すべき方向とその実現のために必要な具体的施策等について検討を行う。懇談会の提言に基づき、区の観光振興施策の効果的な推進を図る。								
対象者等	学識経験者、観光関係団体、観光・交通事業者、産業団体関係者等								
内容	<p>【令和元年度】「2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて荒川区として何ができるか」「日暮里繊維街の観光の魅力の発掘」をテーマにフィールドワーク実施後、意見交換</p> <p>【平成30年度】実施事業の報告、区内観光関連事業者等からのヒアリング</p> <p>【平成29年度】実施事業の報告、今後の荒川区の観光施策（太田道灌）</p> <p>【平成28年度】実施事業の報告、今後の観光施策の課題</p> <p>【平成27年度】区内の観光及び観光資源の現状、前回報告書提言内容の実施状況 観光振興施策の今後の方向性及び具体的施策 ※2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据えてさらなる誘客を図るため、新たな観光振興懇談会報告書を作成。</p> <p>【平成19～22年度】18年度の調査報告書、懇談会提言に基づく区の観光施策の実施状況やその他の社会情勢変化に伴う見直し等の検討・検証</p>								
経過	<p>【平成18年度】様々な分野の有識者で構成する観光振興懇談会を5回開催し、観光振興の目指すべき方向性と具体的施策について検討し、提言を報告書としてまとめた。</p> <p>【平成19年度から平成22年度】18年度の調査報告書、懇談会報告書の提言に基づく区の観光施策の実施状況やその他の社会情勢変化に伴う見直し等の検討・検証（19年2回、20年3回、21年1回、22年1回）</p> <p>【平成24年度】観光事業コンサルタントによる講演会、質疑応答、意見交換である研究会を1回実施 ※平成23年度、25年度、26年度は未実施</p> <p>【平成27年度】荒川区観光振興懇談会を3回行い、座長から区長へ報告書手交実施</p> <p>【平成28年度】荒川区観光振興懇談会を1回実施【平成29年度】荒川区観光振興懇談会を2回実施</p> <p>【平成30年度】荒川区観光振興懇談会を1回実施【令和元年度】荒川区観光振興懇談会を1回実施</p>								
必要性	専門家からの提言・助言を活かすことで、より効果的に区の観光振興施策を推進していくことが期待出来る。								
実施方法	（1直営）（直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）								
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明	
			29年度	30年度	元年度	2年度見込み	目標値(8年度)		
	①	懇談会の開催(回)	2	1	1	2	2		
	②								
③									
事務事業の分類			分類についての説明・意見等						
2年度		3年度							
継続		継続		有識者や関係団体の意見をより実践的・具体的に施策に反映するため、引き続き、懇談会等を開催し、今後の計画づくりに活用していく。					

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		149	743	318	300	248	248	248
決算額 (2年度は見込み)		0	373	63	128	60	162	248
実績の推移	事項名 (2年度は見込み)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	観光基礎調査	-	-	-	-	-	-	-
	懇談会(回)	-	3	1	2	1	1	2
	懇談会専門部会(回)	-	-	-	-	-	-	-
	研究会(回)	-	-	-	-	-	-	-
予算・決算の内訳								
平成30年度(決算)			令和元年度(決算)			令和2年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
報償費	懇談会委員謝礼等	56	報償費	懇談会委員謝礼等	162	報償費	懇談会委員謝礼等	205
需用費	懇談会賄い等	4				需用費	懇談会賄い等	43

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	30年度	元年度	差額		30年度	元年度	差額	
	給与関係費	1,475	1,482	7	地方税	0	0	0
	物件費	4	0	▲4	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	56	162	106	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	80	118	38	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲1,615	▲1,762	▲147
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	1,615	1,762	147	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲1,615	▲1,762	▲147
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲1,615	▲1,762	▲147

備考

行政費用では、給与関係費を除くと補助費等が主なものであり、主な内訳としては、観光振興懇談会委員への報償費として161,860円かかっている。

問題点・課題

平成27年度に作成した「荒川区観光振興懇談会報告書」により、地域経済・産業の活性化、住民の地域に対する誇りの高揚や来訪者との交流による地域活性化を図り、「人が集う魅力あるまちの形成」を目指すことを確認した。
令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症を踏まえ、荒川区の観光振興について何ができるか考える必要がある。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	引き続き、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、区の観光施策についてアドバイス等をいただく	日暮里織維街に関するテーマで、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて区の観光施策について意見をいただいた	コロナ禍における荒川区の観光振興についてアドバイス等をいただく
②			
③			

他区の実況	(実施)		未実施		不明	
	0	区	22	区	0	区
議会議事録(要旨)	平成29年度11月会議 荒川区観光協会の設立に向けて、区内各団体同士の協議の場を設定し、設立に向けて働きかけるべきと考えて欲しい。 平成26年度予特 2020年の東京オリンピックまでに、観光客誘客のための戦略を示して欲しい。					

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-04-06		戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事	
事務事業名	都電荒川線活用事業		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	山下		
			担当者名	本宮	内線	461		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-02-02	都電荒川線活用事業						
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 2年度 <input type="checkbox"/> 元年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業				
開始年度	<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和	19年度	根拠					
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	年度	法令等					
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="checkbox"/> 計画 <input type="checkbox"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出					
目的	区の観光資源である都電荒川線を活用し、区外からの観光客を呼び込む。区内商店街や都電沿線区（北区、豊島区、新宿区）、東京都（交通局）と連携したイベント等の実施や、特別号の運行により、一層の知名度及びイメージの向上を図る。							
対象者等	区民、区外の人々及び来訪者							
内容	<p>【都電荒川線沿線4区地域活性化協議会事業】（平成24年度に協議会設立）</p> <ul style="list-style-type: none"> 都電荒川線沿線絵画コンテスト(23、24年度) 都電荒川線沿線スタンプラリー(25年度～) <p>平成29年実績：8月1日（火）～9月24日（日）に実施、商品応募数1,834人 平成30年実績：8月1日（水）～9月24日（月）に実施、商品応募数1,670人 令和元年度実績：8月1日（木）～9月23日（月・祝）商品応募数1,611人</p> <p>【都電特別号の運行】平成24年～ バラ号(5月)、ハロウィン号(10月)、さくら号(3～4月)、おもいで号（平成26年10月）</p> <p>【ラッピング都電の運行】平成27年度：俳句のまちPRラッピング都電（11月～） 【都電DE俳句】29年度：平成30年11月29日・14名参加、30年度：31年3月12日・15名参加 令和元年度：令和元年12月13日・15名参加、令和2年3月6日・中止</p>							
経過	<p>平成19年度 「都電荒川線ウォークラリー」</p> <ul style="list-style-type: none"> 都電荒川線をPRするとともに、沿線の魅力を多くの人に伝えるため、北区との共催により実施。 <p>平成23年度 「都電荒川線100周年記念事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> 荒川区主催事業：都電100周年荒川区観光ツアー、都電100周年企画展（ふるさと文化館）など 記念事業実行委員会主催事業（荒川区、北区、豊島区、新宿区及び都交通局）：都電サミット、都電荒川線沿線絵画コンテスト、花電車の運行、特設HP開設 <p>平成25年度：都電荒川線沿線4区地域活性化協議会による「都電荒川線スタンプラリー」を実施 平成27年度：都電1台に俳句のまちPRラッピングを実施、ラッピング都電を活用した俳句講座を実施 平成28年度～30年度：あらかわ遊園水辺フェスタで都電を活用したイベント(マジックショー)を実施 平成30年度：俳句のまちPRラッピングのデザイン更新</p>							
必要性	区の観光資源である都電荒川線を活用したイベント開催や話題づくりにより、区のイメージアップやPRにとどまらず商店街をはじめとした地域の活性化に繋がることが期待出来る。							
実施方法	(1直営) (直営の場合 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員)							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			29年度	30年度	元年度	2年度見込み		目標値(8年度)
	①	都電荒川線沿線スタンプラリー参加者数(人)	1,834	1,670	1,611	2,000	2,800	賞品応募者数
	②							
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
2年度		3年度						
継続		継続 沿線3区及び東京都交通局等と連携のうえ、荒川区の観光資源を活用し、都電荒川線沿線地域全体の活性化を図るため、取組みを継続していく。						

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		193	190	216	100	192	196	318
決算額 (2年度は見込み)		30	20	150	41	128	133	318
実績の推移	事項名 (2年度は見込み)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	都電荒川線沿線スタンプラリー (参加者数)	2,003	1,866	1,944	1,834	1,670	1,611	2,000
予算・決算の内訳								
平成30年度 (決算)			令和元年度 (決算)			令和2年度 (予算)		
節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)
需用費	スタンプラリー景品ほか	128	需用費	スタンプラリー景品ほか	133	需用費	スタンプラリー景品ほか	318

行政コスト計算書	勘定科目		30年度	元年度	差額	行政収入	勘定科目		30年度	元年度	差額
	行政費用	給与関係費	2,950	2,965	15		地方税	0	0	0	
	物件費	128	133	5	国庫支出金	0	0	0			
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0			
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0			
	補助費等	0	0	0	使用料及び手数料	0	0	0			
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0			
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計 (a)	0	0	0			
	賞与・退職給与引当金繰入額	161	236	75	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	▲ 3,239	▲ 3,334	▲ 95			
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額 (d)	0	0	0			
	行政費用合計 (b)	3,239	3,334	95	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	▲ 3,239	▲ 3,334	▲ 95			
	特別費用 (g)	0	0	0	特別収入 (f)	0	0	0			
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	▲ 3,239	▲ 3,334	▲ 95			

備考

行政費用では、給与関係費を除くと物件費が主なものであり、主な内訳としては、都電ハロウィン号用消耗品 (ステッカー) 購入に99,997円かかっている。

問題点・課題

① イベントでの都電の活用は充実しているが、都電沿線の活性化については引き続き沿線3区及び交通局と連携し、各駅の観光スポットや沿線情報を掲示し、都電沿線の利便性等をアピールしていく必要がある。
 ② 俳句・バラ・あらかわ遊園等の沿線の魅力を都電と関連付け、「都電の走るまちあらかわ」のイメージを作り、関係機関とも連携し情報発信する必要がある。また、効果的な広報について検討する必要がある。
 ③ 特化したイベントの実施やガイドブックの作成等、外国人観光客に向け更なる魅力発信に努めていく必要がある。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	30年度の実績を踏まえ、都電荒川線沿線4区地域活性化協議会として既存事業の更なる強化を図る	都電沿線の活性化に向け、都電荒川線4区地域活性化協議会として既存事業の更なる強化を図った	より多くの方々に都電の魅力を知っていただくために、広報を工夫し、既存事業の周知を図る
②	荒川区を走る都電を印象づけるべく、特殊電車の更なる活用方法について、様々な視点から検討を行う	荒川区を走る都電を印象づけるべく、特殊電車の更なる活用方法について検討を行った	荒川区を走る都電の印象的な活用方法について、コロナ禍において、様々な視点から検討を行う
③			

他区の実況	(実施 3 区 未実施 19 区 不明 0 区)
	・都電荒川線沿線4区地域活性化協議会に加入

議会(要旨)状況	平成18年4定 都電を活用し、荒川区の観光振興を図るべきである。 平成24年3定 都電を活用した地域や交通局、沿線4区との連携等。 平成26年度予特 あらかわ遊園を活用して商店街振興に貢献するような取組みは検討しているか。 平成27年度予特 あらかわ遊園と都電を活用したイベントで地域ににぎわいが期待できるが区の認識は。 平成27年度予特 あらかわ遊園と都電は区の観光資源であるが、それらをどのように活用しているか。
----------	--

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-04-07		戦略プラン	● 協働 ○ 業務 ○ 財務 ○ 人事				
事務事業名	受入体制整備事業		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	山下		
			担当者名	長崎	内線	461		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-02-03	受入体制整備事業						
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 2年度 ○ 元年度）		○ 建設事業		● それ以外の継続事業			
開始年度	○ 昭和 ● 平成 ○ 令和	17 年度	根拠	荒川区外国人来訪者受入体制整備支援事業補助				
終期設定	○ 有 ● 無	年度	法令等	金交付要綱等				
実施基準	○ 法令基準内 ● 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	● 計画 ○ 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	02	受入体制の充実と観光情報の発信					
目的	観光案内所等を拠点とし、区の魅力を広く情報発信するとともに、来訪者の受入体制を整備するなど、おもてなしの向上を図ることで区の魅力を高め、誘客を促進する。							
対象者等	区民及び区外からの来訪者、区内の宿泊施設及び飲食店							
内容	<p>【観光案内所の運営】日暮里観光案内所における観光情報の発信 開設日：年末年始を除く毎日 10時～16時</p> <p>【観光案内標識設置事業】東京都観光案内標識設置補助金交付要綱に基づく補助事業 17年度 日暮里地区 4基設置 18年度 南千住地区 5基設置 19年度 都電川線沿線 5基設置 20年度 汐入地区 5基設置 22年度 三ノ輪停留場標識を都から移管 29年度 20基盤面改訂</p> <p>【外国人来訪者受入体制整備事業】外国人受入環境整備に対する補助事業、外国人向けイベント実施 区内の宿泊施設、飲食店を営む事業者が外国語版のホームページ、パンフレット等を新規に作成する場合の初期経費の一部（3分の2上限20万円）を補助（平成20年度～）、Wi-Fiスポット2ヶ所整備 日本文化体験イベント、コツ通り盆踊り大会への外国人誘客</p> <p>【観光ボランティアガイド】まちあるきをはじめとした観光案内の実施、まちあるきガイドの養成 ガイド登録者数：139名（延べ）※現在登録者数：40名（うち休会者3名）</p>							
経過	<p>【観光案内所整備運営事業】 平成28年度 日暮里観光案内所及び南千住観光おもてなしサロン開設（平成29年11月閉鎖）</p> <p>【観光案内標識設置事業】 平成17年度 事業開始（04-03-08観光案内標識設置事業から組み替え）</p> <p>【観光ボランティアガイド事業】 平成18年度 養成講座の開始、ガイド活動の開始（観光情報提供事業として） 平成22年度 観光情報提供事業より移管</p> <p>【外国人来訪者受入体制整備事業】 平成20年度 事業開始 平成26年度 要綱を一部改正（対象事業を飲食店にも拡充する） 平成27年度 要綱を一部改正（宿泊施設・飲食店ともに対象事業を拡充する） 平成29年度 日本文化体験イベント開始（日本舞踊体験、商店街ツアー）</p>							
必要性	多言語案内や標識等の整備を進めることで、外国人をはじめとした観光客に荒川区の観光における満足度を高め、リピーターとしての来訪増加が期待出来る。							
実施方法	（ 2一部委託 ） （ 直営の場合 ○ 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員 ）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			29年度	30年度	元年度	2年度見込み		目標値(8年度)
	①	日暮里観光案内所等利用者数(人)	29,186	33,601	36,822	3,000	36,300	年度実績数 2年度はコロナの影響で減少見込
	②	外国語版HP等作成支援(件)	0	0	0	2	5	年度実績数
③	観光ボランティアガイドの活動(回)	17	34	21	5	35	来訪者からの依頼に基く活動数 2年度はコロナの影響で減少見込	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
2年度		3年度						
重点的に推進		重点的に推進 観光案内所におけるきめ細かな観光案内をはじめ、観光案内標識の整備、観光ボランティアガイドの養成など、来訪者の受入環境の整備を重点的に推進する。						

予算・決算額等の推移	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	
予算額	3,182	1,891	22,674	14,558	5,997	11,896	6,901	
決算額 (2年度は見込み)	2,359	1,308	8,259	10,788	3,280	9,800	6,901	
実績の推移	事項名 (2年度は見込み)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	観光案内標識設置	—	—	—	—	—	—	—
	観光案内標識内容更新・修正	5	—	—	20	—	1	5
	外国語版HP作成支援	2	1	1	0	0	0	2
	ガイド活動	32	23	25	21	34	21	5

平成30年度 (決算)		令和元年度 (決算)		令和2年度 (予算)	
節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)
報償費	観光案内所スタッフ謝礼、ガイド養成講座講師謝礼等	2,335	報償費	観光案内所スタッフ謝礼、ガイド養成講座講師謝礼等	2,618
需用費	案内所整備用消耗品・ガイド用消耗品ほか	147	需用費	案内所整備用消耗品・ガイド用消耗品ほか	83
役務費	案内所通信費・ガイド保険料ほか	144	役務費	案内所通信費・ガイド保険料ほか	4,658
委託料	観光案内標識清掃委託ほか	265	委託料	観光案内標識盤面修正委託ほか	2,051
使用料等	案内所賃料	389	使用料等	案内所賃料	388
負担金補助等	外国人来訪者受入整備補助金	0	負担金補助等	外国人来訪者受入整備補助金	400

行政コスト計算書	勘定科目	30年度	元年度	差額	勘定科目	30年度	元年度	差額
	給与関係費	11,307	9,388	▲ 1,919	地方税	0	0	0
	物件費	922	7,159	6,237	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	2,175	2,175
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	2,358	2,641	283	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	531	531	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	2,175	2,175
	賞与・退職給与引当金繰入額	617	747	130	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 15,735	▲ 18,291	▲ 2,556
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	15,735	20,466	4,731	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 15,735	▲ 18,291	▲ 2,556
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 15,735	▲ 18,291	▲ 2,556

備考 行政費用では、給与関係費を除くと補助費等が主であり、主な内訳としては日暮里観光案内所スタッフ謝礼に約2,584千円かかっている。また、物件費は前年度比約6,237千円増加しているが、これは元年度にフリーWi-Fiサービスの導入及び観光ボランティアガイドマップ(改訂版)の作成を行ったためである。

- 問題点・課題
- 外国人観光客向けの日本文化体験イベントの充実を図り、より一層の賑わいを創出する必要がある。
 - 多言語でのガイドが可能なボランティアガイドの育成が必要である。
 - 外国人来訪者受入体制整備支援事業補助金のPRを積極的に行い、事業者支援に繋げ、外国人観光客の受入体制の整備充実を図る必要がある。
 - 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により日暮里観光案内所利用外国人数は減少しているが、フリーWi-Fiサービスの案内など、旅行者の不安に寄り添うより一層のきめ細やかなサービスが必要である。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	引き続き、日暮里観光案内所を訪れる外国人をはじめとした観光客を区内へ誘導するためより一層きめ細かなサービスを提供する。	案内所営業日数を1日増やして、来訪者の受け入れ体制を強化した。	オリパラ開催に向け、更なる外国人来訪者の増加が見込まれるため、営業日数を増やし年末年始を除く全日営業を目指す。
②	外国人観光客向けの日本文化体験ツアーの告知方法や実施内容の改善について、検討する。	近隣の外国人観光客向けの宿泊施設と連携する等、集客に努めた。	オリパラ開催で増加が見込まれる外国人観光客に効果的にPRを行うツアー参加者の増加を図る。
③	30年度の反省を踏まえコースや実施方法を改善し、より満足度の高いまちあるきツアーとする。	北区との合同まちあるきツアーでは30年度反省点となっていた都電の乗車をやめ、徒歩のみのコースとし、概ね好評だった。	ここ数年、ボランティアガイドの会の会員数が減少しているため養成講座のPRを強化する。

他区の実況	(実施 15 区 未実施 0 区 不明 7 区)
観光案内標識…台東区、豊島区、中央区、葛飾区、千代田区、足立区他	

議会要旨 平成20年3定 外国人観光客誘致に向け、観光案内所を日暮里駅周辺へ設置すべき。
平成28年度決特 区内の日本語学校生徒の通訳ボランティアとしての活用について
平成28年度決特 日暮里活性化施設を活用した区内への誘客について

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-04-08		戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事	
事務事業名	水辺空間活用事業		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	山下		
			担当者名	大野	内線	461		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-02-04	水辺空間活用事業						
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 2年度 <input type="checkbox"/> 元年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業				
開始年度	<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和	26年度	根拠					
終期設定	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	令和3年度	法令等					
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内	<input type="checkbox"/> 都基準内	<input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準	計画区分	<input checked="" type="checkbox"/> 計画	<input type="checkbox"/> 非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出					
目的	<ul style="list-style-type: none"> 隅田川の水辺空間を活用し、賑わいを創出するためのイベントを継続して実施することにより、区内でも数少ない広々とした水辺空間のある汐入地域などの魅力を発信し、誘客を図る。 隅田川ルネサンス推進協議会への加入を契機に、引き続き東京都及び隅田川沿川の近隣区、団体等と連携を図り、東京の貴重な水辺空間である隅田川の魅力発信をこれまで以上に推進していく。 							
対象者等	区民、区外の人々及び来訪者							
内容	<p>○水辺フェスタの開催について 【会場 都立汐入公園】(1)令和元年9月8日実施(2)内容①東京水辺ライン運航②ロードトレイン③キッチンカー大集合④パフォーマンスショー⑤水辺スタンプラリー⑥着ぐるみ登場⑦水辺のコンサート（三中）等※入口アーチ・アドバルーンの設定(3)来場者数 3,500人</p> <p>○隅田川ルネサンス推進協議会について 隅田川ルネサンスは隅田川の賑わいを現代に生まれ変わらせ、新たな水と緑の都市文化を未来につなぐ取組みとして始められ、東京都と隅田川沿川区や関係諸団体との連携を図るため学識経験者や地元団体、行政関係者等から成る隅田川ルネサンス推進協議会が設置された。</p>							
経過	平成23年4月	隅田川ルネサンス推進協議会の設立(中央、台東、墨田、江東及び各区の観光協会、学識経験者、東京都が参加、各種イベントの後援(東京ホテル、隅田川夕日見等)						
	平成25年度	①特定テーマの選定 船上サービスの充実、夜間景観のイメージアップ、飲食店の展開						
	平成26年2月	②隅田川ルネサンスのロゴマークの作成 ③ホームページのリニューアル						
	平成26年度	荒川区が協議会に正式参加						
	平成27年度	社会実験とこれまでのまとめ 汐入水辺フェスタ開催(台風により中止)						
	平成28年度	汐入水辺フェスタ開催(9/13)※東京都パラリンピック体験プログラムと同時開催						
	平成29年度	あらかわ遊園水辺フェスタ(6/5)、汐入水辺フェスタ(9/11)開催						
	平成30年度	あらかわ遊園水辺フェスタ(6/25)、汐入水辺フェスタ(9/10)開催						
	令和元年度	あらかわ遊園水辺フェスタ(6/24)、汐入水辺フェスタ(9/9)開催						
必要性	隅田川の水辺を活用したイベントを継続して実施することで、水辺の賑わいが創出され、区外からの誘客と区民の水辺のまちとしての機運の醸成につながることが期待できる。							
実施方法	(二部委託) (直営の場合 <input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員)							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			29年度	30年度	元年度	2年度見込み		目標値(8年度)
	①	水辺フェスタ来場者	9,600	10,800	3,500	0	18,500	各会場の主催の休日イベント来場者数をもとに算出
	②							新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2年度は中止
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
2年度		3年度						
継続	休止・完了		隅田川ルネサンス推進協議会が、民間主導の水辺空間活用の機運の高まりを理由に平成30年度末に活動を終了した。区においても、民間事業の支援を充実させるため、本事業を完了する。					

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		588	777	2,926	4,433	4,753	3,054	3,829
決算額 (2年度は見込み)		414	663	2,749	3,860	4,470	2,588	3,829
実績の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
事項名 (2年度は見込み)								
汐入水辺フェスタ来場者		—	3,700	7,000	6,000	4,000	3,500	3,500
あらかわ遊園水辺フェスタ		—	—	6,500	3,600	6,800	—	—
予算・決算の内訳		平成30年度 (決算)		令和元年度 (決算)		令和2年度 (予算)		
節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)
需用費	水辺フェスタ関連消耗品	164	需用費	水辺フェスタ関連消耗品	24	需用費	水辺フェスタ関連消耗品	190
役務費	水辺フェスタ開催に伴う保険料	72	役務費	水辺フェスタ開催に伴う保険料	40	役務費	水辺フェスタ開催に伴う保険料	56
委託料	水辺フェスタ会場設営費	4,179	委託料	水辺フェスタ会場設営費	2,524	委託料	水辺フェスタ会場設営費	3,583
使用料等	水辺フェスタ開催に伴う都電使用料	56						

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	30年度	元年度	差額		30年度	元年度	差額	
行政費用	給与関係費	5,899	3,459	▲ 2,440	地方税	0	0	0
	物件費	4,398	2,548	▲ 1,850	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	72	40	▲ 32	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	322	275	▲ 47	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 10,691	▲ 6,322	4,369
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	10,691	6,322	▲ 4,369	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 10,691	▲ 6,322	4,369
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 10,691	▲ 6,322	4,369	

備考 行政費用では、給与関係費を除くと物件費が主なものであり、内訳としては、汐入水辺フェスタの会場設営及びイベント運営委託に2,413,800円かかっている。

問題点・課題
 ・水辺空間を活用し、賑わいを創出するためには、庁内他課等と連携の上、魅力あるイベントを継続して実施していくとともに東京都や隅田川沿川の近隣区、関連団体との連携を図る必要がある。
 ・来場者の多くは区内又は川向かいの近隣区からの来場のため、区外の方に荒川区の水辺空間を知ってもらうきっかけとなるイベントに成長するよう、周知方法を検討する必要がある。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	あらかわ遊園の休園に伴い、31年度は、あらかわ遊園水辺フェスタは実施しない。汐入水辺フェスタの内容を充実させる。	水辺ラインについて、本数を増設して運航を行った。また、パラリンピック競技ボッチャの体験ブース等を新設した。	新型コロナウイルスの影響で令和2年度は中止となった。今後は民間事業の支援の充実へシフトしていく。
②	30年度に引き続き、他課等と更なる連携を図り、水辺フェスタを実施する。	他課の事業PRのテントを新設し、マイナンバーカードの取得周知のチラシ等を配布した。	新型コロナウイルスの影響で令和2年度は中止となった。今後は民間事業の支援の充実へシフトしていく。
③	水辺フェスタにおいて、水辺ラインの運航が可能となるよう、東京都公園協会と調整を図る。	東京都公園協会と調整を図り、水辺ラインの運航が可能となる日程で、イベントを行った。	新型コロナウイルスの影響で令和2年度は中止となった。今後は民間事業の支援の充実へシフトしていく。

他区の実況	(実施 4 区 未実施 18 区 不明 0 区) 平成23年4月に中央区、台東区、墨田区、江東区の4区が隅田川ルネサンス推進協議会へ参加
議会(要旨)質問状	平成27年度決特 イベント自体は盛況であった。会場へのアプローチ、区外へのPR、イベント内容等については、更なる充実を図るべき。 平成28年度決特 汐入水辺フェスタの目的を鑑みるともっと水に親しんだ内容にするべき。 平成28年度決特 イベント実施の際は、隅田川対岸の墨田区など、他区との連携を図ってはどうか。

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-04-09	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事		
事務事業名	俳句活用事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	山下			
		担当者名	長崎	内線	461			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-05-01	俳句活用事業						
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 2年度 <input type="radio"/> 元年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和	27年度	根拠					
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	令和3年度	法令等					
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="radio"/> 計画 <input type="radio"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出					
目的	荒川区俳句のまち宣言に基づき、俳句のまちであることを区内外に向け広くPRする各種事業を実施することで、誘客を促進し、地域の賑わいを創出する。							
対象者等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区民、区外の人々及び来訪者 ・ 奥の細道サミット参加自治体 							
内容	<p>俳句及び奥の細道に所縁の深い区として、「俳句のまちあらかわ」及び「奥の細道矢立初めの地千住あらかわ」を広く内外へPRし、区外からの誘客を促進するとともに、地域の賑わいを創出する。</p> <p>[元年度関連事業(イベント関連)]</p> <p>① 旅立ちの日記念事業 千住まちあるきツアー(5月16日、募集60名、応募161名、参加47名)</p> <p>② 芭蕉の大橋渡り(8月24日、【一般】募集50名、応募53名、参加53名【地元小中学】参加39名)</p> <p>③ フォト俳句コンテスト(募集期間令和元年10月1日～令和2年1月14日、応募作品数729句)</p> <p>④ 都電DE俳句(【第1回】12月13日、募集15名、応募35名、参加15名 【第2回】3月6日、募集15名)</p> <p>⑤ 奥の細道紀行330年記念事業実行委員会への参画</p> <p>[元年度関連(その他)]</p> <p>① 俳句のまちあらかわPR商品開発補助金② 俳句のまちあらかわノベルティグッズの購入③ 奥の細道サミット金沢(7月13、14日)④ 奥の細道所縁の自治体の物産展への出店(大垣市9月・11月)</p>							
経過	<p>荒川区は奥の細道所縁の自治体・団体が加入している「奥の細道サミット」に平成19年度から参加しており、平成27年3月14日に「奥の細道千住あらかわサミット」を開催した。</p> <p>また、サミット同日には、「荒川区俳句のまち宣言」を発表し、以降様々な俳句文化の振興に取り組んでいる。</p> <p>[サミット開催状況]</p> <p>28年度 岐阜県大垣市 29年度 富山県高岡市 30年度 山形県大石田町 31年度 石川県金沢市</p> <p>[近年実施した主なイベント]</p> <p>30年度 ラッピング都電(運行・フィルム更新)、都電DE俳句、千住まちあるきツアー、芭蕉の大橋渡り、フォト俳句コンテスト、PR商品開発補助金、関連自治体への出店</p> <p>元年度 ラッピング都電(運行・フィルム更新)、都電DE俳句、千住まちあるきツアー、芭蕉の大橋渡り、フォト俳句コンテスト、PR商品開発補助金、関連自治体への出店</p>							
必要性	俳句のまちあらかわ及び奥の細道矢立初めの地千住あらかわを継続的にPRしていくことで、区内への誘客及び地域の活性化の双方において大きな効果が期待できる。							
実施方法	(二一部委託) (直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員)							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			29年度	30年度	元年度	2年度見込み		目標値(8年度)
	①	俳句関連事業数(観光振興課)	8	10	10	5	11	2年度は新型コロナウイルスの影響により事業数が減少する見込
	②							
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
2年度		3年度						
重点的に推進		推進		区外からの誘客を促進し、地域の活性化を図るため、「俳句のまちあらかわ」及び「奥の細道矢立初めの地あらかわ」を活用した観光振興事業を推進する。				

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		—	7,102	14,431	13,418	14,646	17,208	14,353
決算額 (2年度は見込み)		—	4,875	9,746	11,463	12,205	14,501	14,353
実績の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
事項名 (2年度は見込み)								
関連事業実施数(観光振興課)		6(奥の細道事業費)	9	9	8	10	10	5
奥の細道サミット加入団体数		—	38	38	42	42	42	42

予算・決算の内訳								
平成30年度 (決算)			令和元年度 (決算)			令和2年度 (予算)		
節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)
職員手当等	俳句関連イベント学芸員時間外手当	0	賃金	臨時職員	946	職員手当等	俳句関連イベント学芸員時間外手当	7
報償費	サミット関連自治体への出店報償費	73	報償費	サミット関連自治体への出店報償費	92	報償費	サミット関連自治体への出店報償費	339
旅費	サミット関連自治体への出展旅費	362	旅費	サミット関連自治体への出展旅費	298	旅費	サミット関連自治体への出展旅費	380
需用費	俳句関連イベント消耗品費	612	需用費	俳句関連イベント消耗品費	681	需用費	俳句関連イベント消耗品費	1,345
役務費	ラッピング都電広告料	2,296	役務費	ラッピング都電広告料	2,325	役務費	ラッピング都電広告料	2,482
委託料	俳句イベント運営委託費	8,585	委託料	俳句イベント運営委託費	8,129	委託料	俳句イベント運営委託費	9,270
負担金補助等	俳句のまちあらかわ商品開発補助金	280	負担金補助等	奥の細道紀行330年記念事業参画負担金	2,030	負担金補助等	奥の細道紀行330年記念事業参画負担金	530

行政コスト計算書	勘定科目		30年度	元年度	差額	行政収入	勘定科目		30年度	元年度	差額
	給与関係費		6,883	4,447	▲ 2,436		地方税		0	0	0
物件費		11,838	12,365	527	国庫支出金		0	0	0		
維持補修費		0	0	0	都支出金		149	0	▲ 149		
扶助費		0	0	0	分担金及び負担金		0	0	0		
補助費等		367	2,137	1,770	使用料及び手数料		0	0	0		
減価償却費		0	0	0	その他		0	0	0		
不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	0	0	行政収入合計(a)		149	0	▲ 149		
賞与・退職給与引当金繰入額		376	354	▲ 22	行政収支差額(a)-(b)=(c)		▲ 19,315	▲ 19,303	12		
その他行政費用		0	0	0	金融収支差額(d)		0	0	0		
行政費用合計(b)		19,464	19,303	▲ 161	通常収支差額(c)+(d)=(e)		▲ 19,315	▲ 19,303	12		
特別費用(g)		0	0	0	特別収入(f)		0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	0	当期収支差額(e)+(h)		▲ 19,315	▲ 19,303	12		

備考 行政費用としては、給与関係費を除くと物件費が主なものであり、主な内訳としては、俳句のまちあらかわPR事業実施に係る運営・広告掲載委託費として7,629千円かかっている。補助費は前年度比で約1,770千円増加しているが、これは「奥の細道紀行330年記念事業負担金」として2,000千円支出したためである。

問題点・課題
 ・俳句文化及び奥の細道を活用した区のPRを行うためには、特定の地域だけでなく、区内外へ「俳句のまちあらかわ」及び「奥の細道矢立初めの地」を広めることが求められる。
 ・俳句文化によるまちの魅力を発信し、誘客促進を行うため、観光関係団体・文化団体や地域文化スポーツ部、教育委員会など関係部署と更なる連携を図り、PRや事業企画等を進めていく必要がある。
 ・新型コロナウイルス感染症の影響で従来の規模でのイベント開催が困難となる可能性があるため、イベント内容の見直しを含め、俳句のまちあらかわの新たなPR方法について検討する必要がある。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	奥の細道ゆかりの自治体で開催する「紀行330年記念事業」に積極的に参画し広く「俳句のまちあらかわ」をPRする。	奥の細道紀行330年記念PRキャラバン隊の幹事自治体として日光路に係る自治体のイベントで分火式を行った。	句碑や芭蕉像など、既存の「俳句のまちあらかわ」のシンボルを効果的に活用し俳句関連事業を実施する。
②	奥の細道旅立ち330年を効果的にPRし関係部署や商店街等と連携することで、俳句事業による賑わいを創出する。	芭蕉の大橋渡りの出発式を、ふるさと文化館の奥の細道コーナーのお披露目などと連携し行うことで、賑わいを創出した。	庁内関係部署や商店街等と連携し、俳句を活用した取り組みを継続して実施する。
③	既存の観光資源に俳句を絡め効果的に情報を発信する。	「俳句のまちあらかわ」をPRするラッピングを施した都電を活用し俳句講座「都電DE俳句」を実施した。	既存の観光資源に俳句を絡め効果的に情報を発信する。

他区の実況	(実施 2 区 未実施 20 区 不明 0 区) 「奥の細道サミット」加入団体は、23区では当区のほか、江東区、足立区の2区。
-------	--

議会(要旨) 平成25年1定 「奥の細道旅立ちの地」という重要な地域資源を活かした観光振興を推進すべき
 平成28年度2月会議 「俳句のまちあらかわ」を区内外に広く周知するための取組みを実施すべき
 平成28年度予特 新たに建立する句碑を他の俳句関連スポットとともに観光資源として活用すべき

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード	06-04-10	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事		
事務事業名	あらかわの伝統野菜PR事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	山下			
		担当者名	大野	内線	461			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）	01-01-03	あらかわの伝統野菜PR事業						
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 2年度 <input type="checkbox"/> 元年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和	24年度	根拠					
終期設定	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	令和3年度	法令等					
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input type="checkbox"/> 計画	<input checked="" type="checkbox"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出					
目的	地域の活性化や区民の郷土愛の向上を目指して、かつて江戸時代に荒川区で生産されていた三河島菜など荒川区の地名を冠した野菜を復活させる取り組みを行い、江戸東京野菜として区内外に広くPRを行う。							
対象者等	区民、区外の人々及び来訪者、区内協力店舗等							
内容	<p>①都立農産高校との連携（平成24年度～）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成24年に園芸部にて三河島菜と汐入大根の試験栽培を開始（汐入大根は不作）。翌年より授業として三河島菜を栽培。栽培したものは無償提供頂き区事業で活用 三河島菜を「にっぽりマルシェ」にて、生徒が販売 これまでの三河島菜の研究成果を「にっぽりマルシェ」にてブース展示、来場者に説明（平成27年度～） <p>②区役所内レストランさくらでの三河島菜フェアの開催（平成25年度～）</p> <ul style="list-style-type: none"> 三河島菜を使用した定食を日替わりで1週間提供 <p>③三河島菜イメージキャラクターの作成及びPRグッズの作成（平成26年度～）</p> <ul style="list-style-type: none"> クリアファイル、トートバッグ 							
経過	<p>平成18年度、荒川ふるさと文化館にて、荒川のブランド野菜をテーマにした「あらかわのお野菜 都市とお野菜」を開催。尾久宮前小学校栄養士が、絶えてしまったとされる荒川区ゆかりの伝統野菜が現存しないか江戸東京・伝統野菜研究会の大竹道茂氏に調査を依頼したところ、仙台で栽培されていた「仙台芭蕉菜」が、その子孫種であることが判明。大竹氏が小平市の農家へ種を持ち込み栽培。</p> <p>【平成23年 7月】「青茎三河島菜」としてJA東京中央会によって江戸東京野菜に選定、【平成24年10月】都立農産高校と連携し三河島菜及び汐入大根の試験栽培を開始、【平成25年 9月～】授業の一環で三河島菜の栽培を開始（毎年9月頃）、【平成25年12月～】都立農産高校の生徒が「にっぽりマルシェ」で三河島菜を販売、【平成26年 1月～】区役所内「レストランさくら」にて1週間三河島菜メニューフェアを開催、【平成26年 3月～】都立農産高校へ区から感謝状贈呈（毎年3月）、【平成30年 9月】汐入水辺フェスタに参加。三河島菜を育てるワークショップを開催、【令和元年12月】「人間と社会」の授業として講師を派遣し、勉強会を実施（出席生徒数約140名）</p>							
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 新たな観光資源の創出は、更なる誘客の促進に不可欠である。 荒川区独自の文化を観光資源に活用することは、区の魅力をPRするために大切である。 							
実施方法	（ <input type="checkbox"/> 一部委託 ） （ 直営の場合 <input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員 ）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			29年度	30年度	元年度	2年度見込み		目標値(8年度)
	①	三河島菜フェア提供食数（合計）	453	532	415	600	700	レストランさくら実施（5日間合計）
	②	三河島菜販売数（セット）	84	112	43	200	300	にっぽりマルシェでの販売
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
2年度		3年度						
継続		継続						
三河島菜の認知度を高め、区民の郷土愛の醸成や区の魅力向上を図るため、今後もこれまでの取組を継続していく。								

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額		—	447	377	410	468	470	467
決算額 (2年度は見込み)		—	239	278	248	300	284	467
実績の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
事項名 (2年度は見込み)								
三河島菜フェア提供食数 (合計)		452	718	502	453	532	415	600
三河島菜販売数 (セット)		329	200	80	84	112	43	200
予算・決算の内訳								
平成30年度 (決算)			令和元年度 (決算)			令和2年度 (予算)		
節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)
役務費	勉強会講師謝礼	18	需用費	あらかわの伝統野菜PR用消耗品	138	報償費	勉強会講師謝礼	69
需用費	あらかわの伝統野菜PR用消耗品	176	役務費	勉強会講師謝礼、感謝状筆耕	32	需用費	あらかわの伝統野菜PR用消耗品	254
委託料	マルシェ展示用パネル設営	106	委託料	マルシェ展示用パネル設営	114	役務費	感謝状筆耕	6
						委託料	マルシェ展示用パネル設営	138

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	30年度	元年度	差額		30年度	元年度	差額	
行政費用	給与関係費	1,475	1,976	501	地方税	0	0	0
	物件費	300	284	▲16	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	0	0	0	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	80	157	77	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲1,855	▲2,417	▲562
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	1,855	2,417	562	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲1,855	▲2,417	▲562
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲1,855	▲2,417	▲562	

備考

行政費用では、給与関係費を除くと物件費が主なものであり、内訳としては、パネル展示用ついたての設置委託に114,070円、三河島菜PR用クリアファイルの作成に107,676円かかっている。

問題点・課題

・荒川の伝統野菜として区民に認知され、問い合わせも増えつつあるが、今後も更なる情報発信を継続する必要がある。
 ・生産量が限られており、区民が直接触れる機会が少ないため、新たな連携先の開拓を検討する。
 ・三河島菜の販売等イベント開催時に、新型コロナウイルス感染症の対策をとる必要がある。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	「復活！あらかわの伝統野菜」だよりによる情報発信を継続して行っていく。	「復活！あらかわの伝統野菜」だよりを3回発信し、多くの情報発信を行った。	令和2年度以降も「復活！あらかわの伝統野菜」だよりによる情報発信を継続して行う。
②	各所と連携・協力しながら、三河島菜をPRする機会を設ける。また、広報の仕方についてもより工夫を行う。	農産高等学校と連携し、にっぽりマルシェや三河島菜フェアで三河島菜をPRした。また、フェアのポスターデザインも刷新した。	令和2年度以降も、各所と連携し、新型コロナウイルス感染症対策をしながら、三河島菜をPRする機会を設ける。
③	新たな連携先の開拓について、積極的に検討していく。	新たな連携先の開拓について検討したが、難しい状況であった。	令和2年度以降も、新たな連携先の開拓について、積極的に検討していく。

他区の実況	(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)
議会(要旨)質問状	平成28年度予特 三河島菜の種をもっと広く一般の方が入手出来るようにしてはどうか。 平成28年度予特 尾久宮前小で育てている三河島菜の鉢植えを区役所に展示し、PRしてはどうか。

事務事業分析シート（令和2年度）

No1

事務事業コード		06-04-11		戦略プラン		●協働 ○業務 ○財務 ○人事		
事務事業名		太田道灌魅力発信事業		部課名		産業経済部観光振興課		
				担当者名		木村		
				課長名		山下		
				内線		461		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（2年度）		01-02-05		太田道灌魅力発信事業				
事務事業の種類		○新規事業（○2年度 ○元年度）		○建設事業		○それ以外の継続事業		
開始年度		○昭和 ●平成 ○令和 30年度		根拠				
終期設定		○有 ●無 年度		法令等				
実施基準		○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分		○計画 ●非計画		
行政評価事業体系		分野		Ⅲ 産業革新都市				
		政策		06 人が集う魅力あるまちの形成				
		施策		01 観光資源の発掘とにぎわいの創出				
目的		荒川区日暮里地域には、勇壮な太田道灌の騎馬像や山吹の花一枝像、道灌山、道灌丘碑といった太田道灌に関する観光資源が点在していることから、太田道灌を観光資源とし、イベントやPR活動を行うことで日暮里を活性化させ、荒川区への来訪促進を図る。						
対象者等		区民、区外の人々及び来訪者、区内外協力店舗等						
内容		<p>1 日暮里道灌まつり 太田道灌に所縁のある自治体や店舗による物販及び観光PR、ステージでの催し、パネル展示等を日暮里駅前イベント広場で実施。</p> <p>2 PR活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区HPでの紹介（荒川ゆうネットアーカイブにて太田道灌像について紹介） ・観光パンフレットに掲載（おいでよ！あらかわ（区外向けパンフレット）・荒川区観光ボランティアガイドマップ・日暮里舎人ライナー都電沿線まちあるきマップ） ・パンフレット「太田道灌と荒川区」（5,000部）を作成（令和元年10月発行） ・グッズの作成（令和元年9月～11月） タオルハンカチ（700枚）、付箋（500個）、ウェットティッシュ（1,300個） 						
経過		<p>日暮里道灌まつり 【平成30年度】 開催日：10月20日（土）、21日（日）午前10時から午後5時まで ※にっぽりマルシェと同時開催 自治体・店舗：神奈川県伊勢原市、埼玉県越生町、太田酒造株式会社 東京営業所 ※埼玉県川越市は観光PRポスター掲示及びパンフレット配布のみ（川越市の関係者は不参加）</p> <p>【令和元年度】 開催日：11月9日（土）午前10時から午後4時まで ※区単独開催 自治体・店舗：神奈川県伊勢原市、埼玉県越生町、埼玉県さいたま市、埼玉県秩父市、埼玉県東松山市、東京都北区、東京都武蔵村山市 奥の細道関連：岐阜県大垣市、山形県尾花沢市、埼玉県草加市、福島県福島市、太田酒造株式会社 東京営業所（計11自治体、1店舗）</p>						
必要性		荒川区の歴史文化を観光資源に活用することにより、区のぎわいを創出し、地域経済の活性化するために必要である。						
実施方法		（一部委託） （直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員）						
指標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			29年度	30年度	元年度	2年度見込み		目標値（8年度）
	①	日暮里道灌まつり来場者数		5,000	2,000	0		6,000
	②							
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
2年度		3年度						
推進		推進		荒川区と太田道灌のつながりの認知度を高め、区民の郷土愛の醸成や区の魅力向上を図るため、取組を推進する。				

予算・決算額等の推移		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
予算額					—	2,603	4,207	6,143
決算額 (2年度は見込み)					—	2,330	3,879	6,143
実績の推移	事項名 (2年度は見込み)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	日暮里道灌まつり(人)				—	5,000	2,000	0
予算・決算の内訳								
平成30年度 (決算)			令和元年度 (決算)			令和2年度 (予算)		
節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)
役務費	イベント保険料ほか	38	役務費	イベント保険料ほか	48	役務費	イベント保険料ほか	67
需用費	消耗品費	68	需用費	消耗品費ほか	456	需用費	消耗品費ほか	1,097
委託料	会場設営及びイベント企画ほか	2,224	委託料	会場設営及びイベント企画ほか	3,375	委託料	会場設営及びイベント企画ほか	4,935
						使用料	懇親会会場使用料	44

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目		30年度	元年度	差額	勘定科目		30年度	元年度	差額
	行政費用	給与関係費		4,916	5,929	1,013	地方税		0	0
物件費			2,292	3,831	1,539	国庫支出金		0	0	0
維持補修費			0	0	0	都支出金		1,068	268	▲ 800
扶助費			0	0	0	分担金及び負担金		0	0	0
補助費等			38	48	10	使用料及び手数料		0	0	0
減価償却費			0	0	0	その他		0	0	0
不納欠損・貸倒引当金繰入額			0	0	0	行政収入合計(a)		1,068	268	▲ 800
賞与・退職給与引当金繰入額			268	472	204	行政収支差額(a)-(b)=(c)		▲ 6,446	▲ 10,012	▲ 3,566
その他行政費用			0	0	0	金融収支差額(d)		0	0	0
行政費用合計(b)			7,514	10,280	2,766	通常収支差額(c)+(d)=(e)		▲ 6,446	▲ 10,012	▲ 3,566
特別費用(g)			0	0	0	特別収入(f)		0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)			0	0	0	当期収支差額(e)+(h)		▲ 6,446	▲ 10,012	▲ 3,566

備考 行政費用では、給与関係費を除くと物件費が主であり、主な内訳としては、日暮里道灌まつりの会場設営及び運営委託に2,690,000円、日暮里道灌まつりのチラシ・ポスター作成に116,083円かかっている。行政収入では、東京の多様性を活かした観光まちづくり推進支援事業費補助金として268,000円の収入がある。

問題点・課題 荒川区と太田道灌のつながりを更にPRする方法を検討する必要がある。また、関連自治体と交流を深め、連携することにより、太田道灌の魅力を発信する機会を増やす。
日暮里道灌まつり開催時に、新型コロナウイルス感染症の対策を取る必要がある。

問題点・課題の改善策

	令和元年度に取り組む具体的な改善内容	令和元年度に実施した改善内容および評価	令和2年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	荒川区と太田道灌ゆかりの地との連携を強めていけるよう工夫する	日暮里道灌まつりの出店が2自治体・1店舗から7自治体・1店舗に増加した	荒川区と太田道灌ゆかりの地との連携をさらに深めていけるよう工夫する
②			新型コロナウイルス感染症の影響に配慮したまつりの実施方法を検討する。
③			

他区の実況	(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)
議会要旨	平成28年度予特 太田道灌を活用し、観光客誘致のためのPRを行うべき 平成28年度予特 日暮里駅前イベント広場に道灌広場や山吹広場等の愛称名をつけることで、誘客を図るべき 平成29年度11月会議 太田道灌をテーマとし、ゆかりのある自治体等と連携したイベントを開催するなど、新たな誘客策に取り組むべき 平成29年度予特 太田道灌を軸とした交流を作り出し、関わりのある自治体と広く連携を進めるべき